

団体名 糸満市立西崎中学校	連絡先 TEL : 098-994-3050 Eメール nishicyu@nishizakic.city.itoman.okinawa.jp
----------------------	---

I 実践事項 (2) タイトル：「糸満市学力向上推進の取組」

II 実践内容

1 『支持的風土の学級・学校づくり』の取組

(1) 現状

令和4年度県版生徒質問紙の調査結果【表1】より、「支持的風土の学級・学校づくり」においては、以下の3項目が本校の課題となっており、それぞれについて対応を行っている。

【表1】令和4年度 県版生徒質問紙 調査結果	自校6月	県6月	自校11月	県11月
(3) 学校に行くのは楽しいと思いますか。	84.4 %	84.6 %	78.2 %	83.3 %
(7) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	94.9 %	95.7 %	93.8 %	95.3 %
(2) 先生は、あなたのよいところを認めてくれますか。	87.8 %	90.1 %	86.5 %	89.2 %

(2) 今年度の取組

① 生徒が中心となった自治的活動の推進

ア 校則への取組

学級活動や生徒総会を通して自分達でつくる「校則」を展開し、生徒の問題解決能力を高めている。今年度は昨年度改正した校則を実践するにあたり、生活委員会を中心にチェックを行い、適宜修正等を図っている。



【図1】生徒会主催の行事(スポレク)

イ 生徒会主催によるスポレク大会(6月)及び西中祭(12月)

生徒会の自主企画、自主運営による学校運営への参画意識を高めるとともに、学校行事を通して、生徒の学校への所属感・連帯感を深めている。

② 安心安全な学校づくり

ア いじめ防止ガイダンス(年3回実施)の取組

右の表2のように、生徒指導年間PDCAサイクルに「いじめ防止ガイダンス」を組み込み、教育相談や人権教育、生徒会などの連携を明確化にして、組織的・計画的にいじめ防止に取り組んでいる。

イ 生徒支援便りの発行

生徒や保護者、職員向けの通信を発行し、いじめの現状や取組、生徒の振り返り等を共有し、情報発信を行っている。

月	学校の取組(※生徒への個別支援)
4月	<input type="checkbox"/> 第1回いじめ防止ガイダンス <input type="checkbox"/> 第1回教育相談の実施 ・アセスメントを活用した個別支援 <input type="checkbox"/> いじめ防止月間の取組 ・いじめ防止標語の募集 ・いじめ防止宣言(生徒総会)
9月	<input type="checkbox"/> 第2回いじめ防止ガイダンス <input type="checkbox"/> 第2回教育相談の実施 ・アセスメントを活用した個別支援
1月	<input type="checkbox"/> 第3回いじめ防止ガイダンス <input type="checkbox"/> 第3回教育相談の実施 ・アセスメントを活用した個別支援

【表2】生徒指導年間計画表(抜粋)

(3) 成果と課題

【表3】令和5年度 県版生徒質問紙 調査結果	自校6月	県6月	自校11月	県11月
(3) 学校に行くのは楽しいと思いますか。	78.9 %	82.7 %	76.5 %	81.9 %
(7) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	93.4 %	95.5 %	94.0 %	95.2 %
(2) 先生は、あなたのよいところを認めてくれますか。	84.2 %	90.1 %	86.1 %	90.0 %

〈成果〉

- 質問7の結果より、いじめへの理解が深まり、いじめ防止ガイダンスの成果が出ている。
- 質問2の結果より、教育相談や人権教育等の取組により、生徒の自己有用感が高まっている。

〈課題〉

- すべての質問において県平均を下回っていることから、今後も取り組みを継続する必要がある。

- 質問3の結果より、肯定的な回答した生徒の割合が段々と下がってきていることから、学校行事等も含め、対策を行っていく必要がある。

2 『子供主体の学び合い高め合う授業づくり』の取組

(1) 現状

令和4年度県版生徒質問紙の調査結果【表4】より、「子供主体の学び合い高め合う授業づくり」においては、以下の3項目が本校の課題となっており、それぞれについて対応を行っている。

【表4】令和4年度 県版生徒質問紙 調査結果	自校6月	県6月	自校11月	県11月
(9) これまでの授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。	73.3 %	81.4 %	71.7 %	80.0 %
(13) 学級みんなで話し合っていて決めてことなどに協力して取り組み、うれしかったことがありますか。	73.1 %	82.2 %	71.0 %	84.7 %
(8) 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	41.9 %	55.8 %	46.7 %	53.2 %

(2) 今年度の取組

① 特定の教科等（道徳）の授業研究に全職員で取り組む組織的授業改善

「特別の教科 道徳」を通して全職員の授業改善の視点を揃えることで、生徒の学ぶ姿をイメージした授業づくりを全校体制で推進している。また、各種調査結果を分析し、本校の課題である言語活動の充実を図るために、『西崎レベルアップメソッド』を取り入れた授業実践の徹底を図っている。

授業研究においては、職員間でバディを組み、授業参観や学習指導案を検討している。授業後には、管理職及び学推担当よりフィードバックも行っている。

② 授業と連動した放課後の学習支援

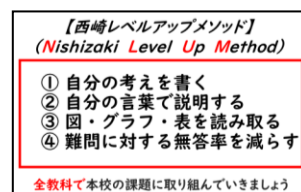
定期テスト前に、生徒会学習委員会による『ブラッシュ・アップ・タイム』を行い、放課後の学習支援の充実を図っている。

③ 自学自習力の育成の取組

自学自習振り返りシートを活用して、生徒に1週間の目標を立てて、振り返りや自己評価を行う取り組みを行っている。



【図2】道徳の授業の様子



【図3】西崎レベルアップメソッド



【図4】ブラッシュ・アップ・タイム

(3) 成果と課題

【表5】令和5年度 県版生徒質問紙 調査結果	自校6月	県6月	自校11月	県11月
(9) これまでの授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。	72.6 %	80.9 %	70.1 %	79.8 %
(13) 学級みんなで話し合っていて決めてことなどに協力して取り組み、うれしかったことがありますか。	66.9 %	82.4 %	71.9 %	84.7 %
(8) 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	43.9 %	53.8 %	40.4 %	50.8 %

〈成果〉

- 校内研修を通して、主体的・対話的で深い学びが生まれる授業づくりをねらいとした研修を行うことができた。
- 質問13の結果より、学級での話し合い活動において成果がでてきている。

〈課題〉

- すべての質問において県平均を下回っていることから、今後も取り組みを継続する必要がある。
- 質問8の結果より、家庭学習の取組について大きな課題がある。自学自習力の育成を図るために、各教科における授業改善や授業と連動した家庭学習の取組の充実が必要である。

3 『地域と共にある学校づくり』の取組

(1) 現状

昨年度は、学校運営協議会やPTA 役員会、自治会の話し合いなど、学校と保護者、地域が関わることで、円滑な学校運営が行えた。また子どもたちがゴミ拾いを行うことや、落とし物を届けるなど、地域の為の取り組みも少しずつ見え始めている。公園における屯行為に対して、地域と連携して取り組めるようにしていきたい。

(2) 今年度の取組

① 糸満市 PBL 授業サポート事業（1 学年総合）

糸満市教育委員会生涯学習課の PBL サポート事業を活用し、地域企業の協力下での課題解決型キャリア教育授業を実施した。

各学級に地域企業から講師を招き、ミッション提示から中間発表、最終発表まで携わってもらい、生徒から企業への提案まで行った。



【図5】PBL 学習 ミッション提示の様子

② ソニー生命を招いてのライフプランニング講座（3 学年総合）

キャリア教育の一環として、ソニー生命から各学級に6名ずつ講師を招いて、グループごとにライフプランニングの実践演習を行った。

生徒達はグループで協力しながら、将来の家族構成や教育プランを立てて、それに見合ったお金のシミュレーションを行うなど、金融教育につながった。



【図6】ライフプランニング講座の様子

③ 学校運営協議会（コミュニティースクール）の取組

保護者や地域、歴代PTA 会員等と協働した学校運営協議会を年5回実施している。

第2回は学校ではなく、西崎2丁目集会所で実施することで、学校運営協議会委員の他に校区内自治会からも多数の参加者があり、学校の取組などを説明することができた。また、地域からの情報や学校への思いなども聞け、さらに今後の学校運営の協力も依頼することができた。

④ スクールソーシャルワーカー及び子供支援サポーターとの連携

子供たち一人一人にあった支援活動に繋げていくことを目的に、西崎近隣公園に集う子供たちと近隣住民及び関係機関の方々と交流として、「お食事どころキンリン」及び「野球交流」を行った。



【図7】第1回交流会の様子

(3) 成果と課題

〈成果〉

- 地域と連携した授業を実践することで、生徒の生きる力の育成につなげることができた。
- 近隣住民と学校課題を共有することで、地域が主体となった校外活動につなげることができた。

〈課題〉

- 学校運営協議会や地域活動本部会議については、まだまだ学校主体での活動である。
- 次年度は、子どもたちの安全・安心を守るために、地域の協力を仰ぎ一体となって取り組む学校支援ボランティア活動の取組を推進していく。